

甲南大学法科大学院入学試験問題について

－ 2016 年度一般入学試験（後期募集） －

試験科目：刑法（担当：法科大学院 教授 園田寿）

1. 出題趣旨

承継的共同正犯がテーマである。現在では、承継を完全に肯定する説や否定する説は少数であり、具体的な犯罪類型にしたがって検討すべきであるとする見解が一般である。本問では昏酔強盗が問題になっているが、先行行為者が暴行・脅迫を加えた後に、後行行為者が共謀して財物を奪取する場合、判例は、後行行為者が関与後も先行行為者が被害者を抗拒不能に陥れたという効果がなお持続しており、これを認識して積極的に利用して後行行為者が実行すれば、全体として強盗罪の成立を認めている。

2. 採点実感

本問では、「後行者が先行者の行為を認識・認容し、自己の犯罪遂行の手段として積極的に利用したものと認めることができ」るか否かを具体的な事実を挙げて検討しているか問題であるが、おおむね出題の趣旨を理解し、事実に添って事案を分析し、強盗罪の要件を検討している答案が多かったと思う。

3. 学習方法

標準的な教科書をじっくりと読み、そして理解し、まずは刑法を体系的に理解することが重要である。そして、基本的な判例および判例解説を読み、実務において個々の犯罪成立要件がどのように適用されているのかを理解することが重要である。